

# 2026 年度

## 国 語

最初に、以下の<sup>ちゅういじこう</sup>注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は<sup>かんとくしや</sup>監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

\* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 身の安全をホシヨウする。
- ② 畑をタガヤす。
- ③ 新しいフウチヨウに合わせる。
- ④ 道路をカクチヨウする。
- ⑤ 大国にジュウゾクする。
- ⑥ 食事代をセイサンする。

問二 次の中から意味が似ていることばを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、権利      イ、就任      ウ、義務      エ、義理      オ、責任

問三 次の□の中のひらがなを漢字にしたとき、その漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

学問に意<sup>□</sup>よく<sup>□</sup>を燃やす。

問四 次の文の空らん適切な漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

社長は部下の意見を□平無□の態度で聞くため、多くの人に尊敬されている。

問五 次の文はことわざである。( )に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

まかぬ( )は生えぬ

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

翌日、まず二限目の数学で答案用紙の返却があった。46点。平均点は52点。僕にはもう、驚きすらなかった。劣等生の烙印が目の前に突き付けられる。

五限目では地理が戻ってきた。答案用紙に書かれているのは、57点。

「平均点は64点」

矢代先生が言った。

よかった、数学も地理も、とりあえず赤点はまぬがれたらしい。

ほっとする一方で、赤点を基準に一喜一憂している自分に苦笑した。

落ちぶれたもんだな、宮原奏斗。

「ちよっと出題量が多かったからな。でも、大学入試はこんなもんじゃないから練習だと思って」

大学入試に向けての練習。

そう言われて、あらためてそうだったんだと思う。疑問にも感じなかった。

僕は今まで、高校入試に向けて勉強してきて、今度は大学入試に向かっていているらしい。

大学に入りたいのかどうか、よくわからなくなってきた。なんで勉強するんだ？

矢代先生がチョークを取り、背を向ける。

1位から3位までの点数だけ、黒板に書かれていく。

1位 97点

2位 96点

3位 88点

名前は公表されない。3位までの本人だけが自分のことだと知るのだ。僕たちにわかるのはただ、そんなすごいヤツがこのクラスにいてることだけ。

中学時代の僕は、あっち側にいたのに。

でももう、仕方ない。僕は不相应な苦しい「狭い世界」を選んでしまったのだ。

これから僕は、この立ち位置で過ごしていこう。赤点を取らない程度に、落第しない程度に。

そう思ったら、気持ち少し楽になった。

バイトでもしようかな。雫田さん、お好み焼き店楽しいって言ってたし、コンビニやハンバーガーショップとかでもよく募集しているし。

もつとこう、高校生活をエンジョイするっていうのも、いいんじゃないかな。

勉強ができるだけがすべてじゃないんじゃないかな。

③ 雫田さんみたいな友達がいれば、けっこう楽しく過ごせるかもしれないし、落ちこぼれなら落ちこぼれなりの、のんきな学校生活っていうのも、ありなのかな。

A ぼんやりした頭に、矢代先生の声が響く。答案用紙返却の日の授業はどの教科も、答え合わせの時間だ。

先生に言われるまま、青いボールペンで正解を書いていく。間違えた答えの余白に、そして、書き込むことさえできなかった空欄に。

授業の終わりがけに、雫田さんが教卓に向かった。

矢代先生と、何か小声で話している。

「正直なヤツだな」

矢代先生が笑い、赤ペンで何か書き記す。

そして黒板に向き直ると、黒板消しとチョークを使って訂正をした。

1位 96点

2位 95点

3位 88点

えっ、と声をもらしそうになった。

雫田さんはすました顔で席に戻っていく。手には答案用紙を持っていた。

すぐにわかった。

つまり、2点分のどこかが間違っているのに丸になってしまっていて、それを彼女は正直に申告したのだ。97点から95点へ。

僕だけでなく、このクラスの全生徒が理解しただろう。

期末テストにおける地理のクラス2位が、雫田さんだったこと。

放課後、雫田さんが僕の席までやってきた。

「ブラマン、持ってきてくれた？」

屈託のない、明るい表情。

僕は、雫田さんを直視することができなかった。

五冊の漫画が入った紙袋を渡す。笑えない。あの公園のときみたいに接することができない。

漫画を受け取りながら、雫田さんがちよつと顔を傾ける。

「あれ？ どうした？」

「……いや」

僕は苦笑いをしながら言った。

「頭よかったんだなと思って」

1 している雫田さんに対して、思わず嫌味いやみっぽい言葉が出る。

「95点なんて、すごいじゃん。訂正だましないで黙だまってれば1位だったのに」

「ああ、そのこと」

さつくりと言われて、2 怒いかりが湧わいた。

勉強べんきょうできるくせに、できないふりしてたんだろ？ 僕のことバカにしたたのかよ。

いるよな、そういうヤツ。さも遊あそんでるふうに見せかけて、相手を油断ゆだんさせて、ちゃっかりいい成績取とって。おまけに誠実まことさもアピールしちゃうって。

抑おさえきれず、つかかかるといふような口調くちょうになってしまふ。

「地理、めっちゃ苦手くでって言うってたじゃないか」

「苦手くでだよ」

雫田さんは事こともなげに言った。

「苦手くでだから、めっちゃめっちゃ、めっちゃ勉強べんきょうしたんだよ」

雫田さんの目が、僕を射る。そして彼女はこう続けた。

「誰たれかに勝ちたかったんじゃないかって、私が、がんばりたかったんだ」

はっ、胸むねを打うたれた。

僕は言葉をなくし、雫田さんを見る。

雫田さんはちらっと目を泳およがせ、僕の返事も待たずに「じゃあね」と足早あしはやに去いってしまった。打たれたままの胸はじりじりと鈍にぶく痛み、僕はしばらく 3 突つっ立たっていた。

公園へ向かう足取りは重かった。

今の僕に、愚痴ぐちを聞いてくれるような人はいない。せめてカバヒコ注のほのぼのした姿に触れたかった。どうかまた頭のいい自分に戻してくれと願ねがいを掛けたかった。

会話を続けようとせず、4 帰ってしまった雫田さんの後ろ姿が脳裏のうりに焼き付いて離れない。

彼女はもう、僕と話す気もないってことなんだろう。あんないやな言い方をしてしまったから当然だ。

でも、だって、こんなことって。

釈然しやくぜんとしないまま歩いていたら、汗あせがにじみ出てきた。七月も半ばに入って、今日は特に蒸し暑い。

喉のどが渴かわいた。ちょうどサンライズ・クリーニングの庇ひさしが見えてきて、僕は自動販売機じどうはんばいきの前に立つ。

コイン投入穴に百円玉を二枚入れ、カルピスウォーターのボタンを押した。がたと音がしてペットボトルが受け取り口に落ちてくる。同時に、お釣おつりりが落ちる小気味いい音も軽く響いた。

「……あれ」

カルピスウォーターは百五十円だ。なのに、お釣りを取ろうと返却口に指を入れたら硬貨こうがが二枚あたった。

ふたつの五十円玉。

前の人を取り忘れていっちゃったんだ。僕はその二枚を手のひらに載のせる。

ラッキー。

そのまま財布さいふに収めてしまえば、誰も気づかない。五十円ぐらいじゃ別に、忘れていった落とし主も困ったり傷ついたりしないだろう。

財布を開けようとして、ふと、雫田さんのことを思い出した。

97点から95点への自己申告。

言わなければ、絶対わからなかったはずなのに。

1位のまままでいられたのに。

——誰かに勝ちたかったんじゃないやなくて、私が、がんばりたかったんだ。

「かなわないよなあ……」

僕は五十円玉をひとつだけ財布に入れ、もうひとつは手のひらに収めた。

空いているほうの手でカルピスウォーターを持ち、ごくごくと飲む。そしてちょっと考えたあと、ガラス張りのドア越しにサングラス・クリーニングをのぞいた。

ビニールにくるまれた衣服たちにならずもれるようにして、カウンターの向こうにおばあちゃんがひとり、座<sup>すわ</sup>っていた。銀のかがったような白髪<sup>しろが</sup>で、気持ちいいくらいさっぱりしたショートヘアだった。栗田さんの言っていた、カバヒコの腰<sup>こし</sup>をなでたらヘルニアが治ったおばあちゃんかもしれない。

僕はドアを開けた。おばあちゃんがふいっと顔を上げる。

「すみません。その自動販売機、前の人のお釣りが残ってみたいで」

そう言っ<sup>⑤</sup>て五十円玉を差し出すと、おばあちゃんは「へえっ！」とすつとんきような声を上げた。

そして僕のことを頭<sup>かぶ</sup>のてっぺんから足先までじろじろとねめまわし、五十円玉を受け取るとこう言った。

「美冬<sup>みふゆ</sup>ちゃんと同じ学校の子？」

「え」

「栗田美冬ちゃん」

おばあちゃんは自分の襟元<sup>えりもと</sup>のあたりにとんとんと指を当てた。僕のシャツについている校章を指しているのだろう。

「あ、ええ。まあ」

⑥「栗田一家は昔からうちの常連さんだから。美冬ちゃん、いい子だよね」

「……………そうですね」

「バイト、忙<sup>いそが</sup>しくしてるんだろ？」

「そうだと思います」

話が長くなりそうだと。適当に聞き流して店を出ようとしたら、おばあちゃんが五十円玉を引き出しにしまいながら言った。

「あの子、兄弟姉妹、合わせて六人いるんだよ」

六人？

思わず目を見開いた。そんなに大家族なのか。

「高校にかかるお金はできるだけ自分で稼ぐって言っただけ、えらいもんだよね。そのせいで成績悪いって言われたくないからって、勉強も必死でね。あの狭い団地でひとり部屋もないのに、よくやってるよ」

⑦ 殴られたような気分だった。

なんだよ、それ。できすぎだろ……。

いろんな気持ちで混ざり合って、ぐちゃぐちゃになる。雫田さんへの敬意と嫉妬。自分への苛立ちと保身。

店のドアが開き、大きな紙袋を提げた女の人が入ってきた。三つ編みを一本に束ねているその人に「いらっしやい」とおばあちゃんが声を上げた。お客さんだ。

僕は黙って店を出る。

「頭脳修復」なんて、軽々しくカバヒコにお願いする気持ちになれなかった。僕はそのまま来た道に戻り、公園に行かず家に帰った。

(青山美智子『リカバリー・カバヒコ』(光文社)より)

注・カバヒコ……近くの公園に置かれている、触れることで願いがかなうと言われている遊具。

問一

1 4

ものを使えない。

に入れることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ

- ア、くらくと                      イ、ぼんやりと                      ウ、むらつと                      エ、さつさと                      オ、ぼかんと

問二

~~~~線部A「先生に言われるまま、青いボールペンで正解を書いていく。間違えた答えの余白に、そして、書き込むこと  
さえてできなかった空欄に」とあるが、ここで用いられている表現技法として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答  
えなさい。

- ア、体言止め                      イ、擬人法<sup>ぎじんほう</sup>                      ウ、倒置法                      エ、直喩<sup>ちよくゆ</sup>

問三

~~~~線部X・Yの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。  
X「事もなげに」

- ア、何も特別なことではないかのように、平然と行うさま  
イ、何か事が起きたときに、責任を取らずに投げ出すさま  
ウ、何げなく行ったことが、大きな事態を引き起こしてしまふさま  
エ、何事もなく過ごしていたはずが、突如<sup>とつじょ</sup>として変化していくさま  
Y「胸を打たれる」

- ア、だれかに責められて苦しい思いをすること  
イ、心の中の不安を取り除くこと  
ウ、強い衝撃<sup>ししょうげき</sup>を受けて傷つくこと  
エ、相手のことばや行動に感動すること

#### 問四

——線部①「赤点を基準に一喜一憂している自分に苦笑した」とあるが、このときの心情として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、ほとんどの教科で赤点を取らずに安心した一方で、大学入試のことを考えると気が重いように感じている。
- 2、劣等生の烙印をおされたことを後悔しながら、自分自身が勉強してこなかったことを改めて反省している。
- 3、高校入試に向けて勉強していたときの自分と比べて、今の落ちぶれた自分の姿に自嘲気味じちようきみになっている。
- 4、自分なりの勉強の成果を得ることができたが、なんで勉強をしなければならないのかと嘆なげいている。

#### 問五

——線部②「この立ち位置」とあるが、僕はこれからどのように過ごそうとしているか。「くを送ろうとしている」に続くように、本文中から二十五字以内で探し、最初と最後の三字をぬき出しなさい。

#### 問六

——線部③「雫田さんみたいな友達」とあるが、この時僕は具体的にどのような友達だと感じているか。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、点数を正直に訂正するなど自分に厳しい一面を持ち、誰にでも優しく誰とも仲良くできる友達。
- 2、お好み焼き屋でバイトをしながら、勉強を真剣に頑張りつつ高校生活をエンジョイしている友達。
- 3、バイトをするなど一見不真面目そうに見えるが、自分から点数の訂正をするなど誠実な友達。
- 4、勉強を第一に考えるのではなく、バイトをするなどして高校生活をエンジョイしている友達。

## 問七

——線部④「雫田さんを直視することができなかった」とあるが、なぜ「直視することができなかった」のか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、雫田さんは僕の理想とする高校生活を送っていると思っていたが、それ以上に真面目で勉強熱心だと知って気まずく感じたから。
- 2、クラスの中でも落ちこぼれの自分にとって、その中で2位の成績をとる雫田さんが急に自分よりも遠い存在に思えたから。
- 3、雫田さんは地理のテストでクラス順位が下がってしまったにも関わらず、屈託のない笑顔で過ごしていることに嫌悪感おかえを持ったから。
- 4、自分と同じ境遇きょうぐいににいると思っていた雫田さんが自分をだまして仲良くなっていたことに気づき、強い怒りを感じたから。

## 問八

——線部⑤「すつとんきような声を上げた」とあるが、なぜおばあちゃんはそのような声を上げたのか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、五十円というわずかなお金を持ってきた奏斗が、偶然美冬と同じ学校の生徒であることに気づいたから。
- 2、自動販売機に残っていたお金を持ってくるような人がいるとは思わず、奏斗の誠実な行動に驚いたから。
- 3、奏斗が美冬と同じ学校の生徒であることに気づき、そのことを話し始めると急によそよそしい態度になって意外に感じたから。
- 4、自動販売機に残っていたお金をわざわざ持つてくるとは思えず、奏斗の行動に何か裏があるのではないかと疑ったから。

問九

——線部⑥「……………そうですね」とあるが、このときの心情として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分によって雫田さんは「いい子」ではなくあくこの存在でしかないので、どう答えていいかわからずにいる。
- 2、雫田さんに対して複雑な思いをもっていたので、彼女がほめられていることを素直すなおに受け入れられずにいる。
- 3、おばあちゃんにねめまわされたことで少し嫌な気持ちになり、早くその場から離れたいと考えている。
- 4、雫田さんと同じ学校の友人であると知られたことが気まずく、適当な相づちを打つことでそれをごまかそうとして  
いる。

問十

——線部⑦「殴られたような気分だった」とあるが、なぜ僕はこのように感じたのか。その理由を本文中のことばを用いて、四十字以内で答えなさい。

### 【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

#### 人間における他の個体との付き合い方

イヌやネコなどに対して、現代の人間の場合は、初対面の人に威嚇や攻撃など敵対的な行動をすることはまずありません。小さな子どもどうしであればありえるかもしれませんが、普通の大人であれば、失礼のない程度に愛想よくするのはないでしょうか。

どのくらい愛想よくするかは、「その人とまた会うかどうか」も重要なポイントになっているように思います。たとえば、近所に住んでいる人や、学校の同級生、あるいは会社の同僚など毎日のように顔を合わせる人であれば、敵対していてもいいことは何もありません。① 敵対していたら、顔を合わせるたびに嫌な気分になってしまいますし、困ったときに助けてくれないかもしれません。多くの人は、頻繁に会う人たちとはできるだけ仲良くするように、少なくとも険悪な関係にならないように努力するのではないかと思います。

それでは近所の人ではなく、旅先でたまたま出会った人であればどうでしょうか。たとえ険悪な雰囲気になったとしても二度と会うことはありません。失礼のない程度の付き合いはするにしても、良好な関係を築く必要性は感じないのではないのでしょうか。

このように、今後もつきあう可能性がある人となない人で態度を変えることは、いたって「I」的②です。この傾向は「進化ゲーム理論」という理論的な研究でも確かめられています。同じ個体と長く付き合い合えば付き合い合うほど、協調的な行動が有利に働くことから、付き合いの長さが安定な協力関係を生み出すひとつの要因になることが分かっています。<sup>\*1</sup>

そして付き合いの長さに大きく影響を与えるのは寿命の長さです。寿命の長い生物どうしは生涯でまた出会う可能性が高まります。人間は長生きで成長に時間のかかる生物です。これは「X」の戦略によるものです。その結果として同じ他人と長く付き合うことになり、敵対したり無視したりするよりも仲良くなって協力し合うほうがお互いの生存に有利になっています。

こうして人間の場合は、【

②

】と考えられています。

## 人間社会の協力関係

現在の人間たちの協力の最たるものは「職業」です。多くの人は職を持っていて、特定の仕事をすることで生きていけるようになっていきます。私の場合であれば大学教員ですので、大学で講義したり、研究をしているだけで給料をもらって、aを賄うことができます。私が身に着けている衣服も毎日食べている食料も、住んでいる家も、自分で作ったものではありません。作ろうと思っても質の高いものは作ることができません。その代わりに他のもつと技術のある人間が仕事として作ってくれたものを買っています。

現代人には当たり前すぎて2意識しないかもしれませんが、③これは大きな協力関係です。皆が自分以外の誰かのために質の高い仕事をするので、全員が安全で快適な生活を送ることができています。

職業という協力関係の重要さは、誰かが仕事を辞めたらどうなるかを考えるとすぐにわかります。たとえば、衣服を作る仕事の人が全員辞めてしまったら、みんな自分の服は自分で作らないといけなくなります。きつと粗末な衣服しか作れないことでしょう。忙しい人は全く作れないかもしれません。着替えを用意しておくのも大変ですし、洗っているうちにぼろになるでしょうから、洗濯もあまりしなくなるでしょう。衣服は汚れ、感染症も広まりやすくなるかもしれません。現代人が安く品質の高い衣服を手に入れることができてきているのは、作ることに特化した人が専門に作ってくれるおかげです。

④そしてそれは一方的な関係ではありません。衣服を作る人も食料や住居は別の専門家に作ってもらいます。私たち人間は、現在、社会という大きな協力関係の網の網の中に組み込まれています。

「社会の中に組み込まれる」ということは「社会の歯車になる」ということです。この言葉にはあまりいい印象はないかもしれませんが、自分の個性とかアイデンティティがおびやかされていると感じるかもしれません。しかしそれは誤解だと私は思います。⑤むしろ社会の歯車になることでほとんどの人は個性を発揮して、みんなの役に立てるのだと思います。

たとえば、社会が全く存在しない状況を考えてみましょう。父親、母親、小さな子どもの3人家族だけで無人島で暮らしてい

るような状況です。この場合、生きていくために必要な仕事はすべて3人だけで分担しないといけません。狩りをするのは、生物的に力の強い大人の男性である父親になるでしょう。植物や果物を採集したり、調理したりするのは、狩りに不向きな女性や子どもの仕事になるでしょう。たとえば、狩りなんて荒っぽいことが嫌いな男性や、採集よりも狩りの方が好きな女性だったとしても、餓えないためには《Ⅱ》的に向いている方をやらざるをえません。狩りに失敗したり、食べ物を見つけることに失敗したりすれば、すぐに命の危機が訪れます。

3、この世界では、勉強が得意とか、絵をかくのが得意とか、コミュニケーション能力が高いつことはありません。なにより必要なのは、獲物をしとめたり、食料を確保する能力です。力や体力が何よりも重要です。強く丈夫で健康な人間だけが生き残る世界です。それ以外の個性には出番はありません。

一方で私たちの社会は違います。力や体力が必要な職業もあれば、勉強や絵を描くことやコミュニケーション能力が必要な職業もあります。どれか1つの能力が優れていれば、十分に活躍の場が見つかります。少なくとも狩猟採集社会よりは、今の社会の方が自分に合った役割（菌車）が見つかる可能性が高いように思います。

## やさしさの進化

こうした他人との協力からなる社会を形成するようになると、人間という生物が増える単位も変わってきます。人間以前の生き物は自分の力で自分だけを増やしていました。細菌も線虫もカエルも虫もサルも、増えることができるかどうかは自分の能力や運によって決まっていました。優れた能力を持っていれば生殖に成功し、子孫を作ることができますし、そうでなければ血統は途絶えてしまいます。

4 協力関係の網の目の中にいる人間は違います。自分が生き残って増えるためには他の人の能力も重要です。また自分の能力もほかの人が生き残って増えることに貢献しています。自分の命が大事なと同じように、他の人の命も大事になっていきます。増える単位が自分の体を超えて広がっているといってもいいかもしれません。

人間以外の生物が非血縁個体と協力することは、特殊なケースを除いてほとんどありません。なぜ人間のみでこのような特殊

な能力が生まれたのかについてはいろいろな説があります。人間の持つ高度な言語能力や認知能力や寿命の長さが大事だったと言われています。また、それらの能力が生まれた背景には、狩猟採集生活の中で協力する必要性があったことや、子どもが成長するまでに時間がかかることから子育てに他の個体の協力が必要だったことなどが指摘してきされています。<sup>\*2</sup>

このような性質のどれが《Ⅲ》的な原因だったのかはわかりませんが、いずれにせよ、このような他の個体との協力を可能とする人間の性質は、元をたどれば【Ⅹ】の戦略によってもたらされたものです。命を大事にして長く生きるようになり、他個体と付き合うことが可能になったために協力することが有利になりました。

しかも、人間には他者を認識する知能や、他者の気持ち⑦を察することのできる共感能力も備わっています。結果として協力関係がどんどん発展していきました。私たち人間は地球上の他のどんな生物よりも協力的な、いわば「やさしい」生物です。このようなやさしさの進化は【Ⅹ】の戦略を極めてきた生物にとって必然だったように思えます。

\*1 加藤文男「日本サケ属 (Oncohyacinthus) 魚類の形態と分布」『福井市自然史博物館研究報告』第49号、53—77頁、2002年  
\*2 稲垣栄洋『生き物の死にざま』草思社文庫、2021年

(市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』(ちくまプリマー新書)より)

## 問一

1 4 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、あるいは      イ、また      ウ、ところが      エ、もし      オ、あまり

問二 《Ⅰ》《Ⅱ》《Ⅲ》に入る二字のことは次の漢字を組み合わせてそれぞれ作りなさい。

理 接 科 心 身 合 直 力 間 体

問三 【 X 】にあてはまることばとして、適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、少産少死      イ、少産多死      ウ、多産少死      エ、多産多死

問四 a にあてはまる三字熟語を答えなさい。

問五 本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる五字をぬき出しなさい。

「このような大規模な協力関係は人間ならではの<sup>とくちよう</sup>特徴です。」

問六 —線部①「失礼のない程度に愛想よくするのではないでしょうか」とあるが、なぜこのような態度をとるのか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、会社の同僚などと敵対関係になることは避けられないので、愛想をよくして険悪な関係を作らないように気をつけているから。
- 2、頻繁に会う人だけには愛想よくしておかないと、自分自身が良好な関係を築くことができないかもしれないから。
- 3、普段会うことのない人であっても普通の大人であれば、当然愛想よくすることを他者から求められているから。
- 4、敵対していてもいいことは何もないし、愛想よくしていれば自分が困った時に助けてもらえるかもしれないから。

問七 【 ② 】にあてはまることばとして、適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、血縁関係にない個体との協力関係が発展してきた
- 2、血縁関係に頼り続けることで発展してきた
- 3、血縁関係のない集団と戦略的に集団を形成してきた
- 4、血縁関係を大事にすることで協力関係を形成してきた

問八 — 線部③「これ」が指していることは何か。本文中のことばを用いて、四十字以内で答えなさい。

問九 — 線部④「社会という大きな協力関係の網の目」とあるが、それはどのような社会か。その説明として適切でないものを

を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分の個性やスキルが様々な人々の助けとなる社会。
- 2、長い年月を他の個体とつきあいながら過ごす社会。
- 3、他者を認識する知能を用いやさしくあろうとする社会。
- 4、お互いがもちつもたれつに影響しあい共生する社会。

問十 — 線部⑤「社会の歯車になることでほとんどの人は個性を發揮して、みんなの役に立てる」とあるが、それはどのようなことか。本文中のことばを用いて四十字以内で答えなさい。

問十一 — 線部⑥ 「人間以前の生き物は自分の力で自分だけを増やしていました」とあるが、これはどのような意味か。適切

なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、他の人が持つ優れた能力も重要で、それらと生殖が成功することで子孫を作ることができるという意味。
- 2、優れた能力を持つことで、他者との社会形成を容易に行うことができるという意味。
- 3、自分自身が優れた能力を持ち、また運に恵まれることで子孫を残すことができるという意味。
- 4、優れた能力を持たなくても、運に恵まれることで血統を途絶えさせずに繁栄させることができるという意味。

問十二 — 線部⑦ 「人間は地球上の他のどんな生物よりも協力的な、いわば『やさしい』生物です」とあるが、その理由とし

て適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、言語を発達させることで、他の生物より優位に立つことができたから。
- 2、共感や協力の力を発達させ、仲間と助け合うようになったから。
- 3、長い寿命をもつため、孤独を避けて生きていく必要があったから。
- 4、からだが強いため、敵を作らずに生き残ろうとしたから。

問十三 次の生徒の発言を読んで、本文の内容と異なっているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

先生「この文章を読んで、みんなが理解したことをそれぞれ述べてみましょう」

1、Aさん「大学の講師をしている人が着る服や食べるものを専門家に作ってもらうのは、一方的な関係にしかならな  
いよね。本当に社会は協力関係で成り立っているとは言えない気がする」

2、Bさん「家族って形態は、やはり『社会』とは言えない構図であることは明らかだね。限られた個性だけが活躍す  
る集団っていうのは、『社会』とは言えないみたいだ」

3、Cさん「人間だけがこうした関係を作りあげている背景には、高度な言語能力などがあつたと考えられる。言語能  
力や認知能力が高いことで協力関係を構築することができたのではないだろうか」

4、Dさん「人間の特色はそれだけではないよ。他人の気持ちを思いやったり察知したりする共感もできるから、そう  
いった意味でも人間以上にやさしい生き物はいないよ」

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |
| 氏名   |
|      |

|    |
|----|
| 得点 |
|    |

|    |    |    |   |   |
|----|----|----|---|---|
| 問四 | 問二 | 問一 | ⑤ | ① |
| 平無 |    |    |   |   |
|    |    |    | ⑥ | ② |
| 問五 | 問三 |    |   | ③ |
| 画  |    |    |   | ④ |
|    |    |    |   |   |
|    |    |    |   |   |

|    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|---|
| 問十 | 問六 | 問四 | 問二 | 問一 | 1 |
|    |    |    |    |    |   |
|    | 問七 | 問五 | 問三 | 2  | 2 |
|    |    |    | X  | 3  | 3 |
|    |    |    | Y  | 4  | 4 |
|    | 問八 |    |    |    |   |
|    |    |    |    |    |   |
|    | 問九 |    |    |    |   |
|    |    |    |    |    |   |
|    |    |    |    |    |   |

を送ろうとしている。

|     |    |    |    |    |     |    |   |
|-----|----|----|----|----|-----|----|---|
| 問十二 | 問十 | 問九 | 問八 | 問五 | 問二  | 問一 | 1 |
|     |    |    |    |    | I   |    |   |
|     |    |    |    |    |     | 2  |   |
|     |    |    |    |    | II  |    |   |
|     |    |    |    |    |     | 3  |   |
|     |    |    |    |    | III |    |   |
|     |    |    |    |    |     | 4  |   |
|     |    |    |    |    | 問三  |    |   |
|     |    |    |    |    |     |    |   |
|     |    |    |    |    | 問四  |    |   |
|     |    |    |    |    |     |    |   |
|     |    |    |    |    |     |    |   |